

第 13 回関東学生クラブ選手権大会の概要

東日本エリアの学生クラブ選手権大会は、前身の東京都学生クラブ選手権大会の時代から通算して今年で19年目を迎えた。従来からこの大会は、単に覇を競うだけが目的ではなく、大会を通じて学生クラブの組織力・運営力、マナーの向上・ラグビースピリットの涵養など、学生クラブの地位向上を目指す大会として開催されてきた。この基本方針をさらに推進し、正月に瑞穂で開催される「地区対抗大学大会」への出場権を賭けた関東地区予選としての位置付けを一段と鮮明にする大会を目指すことになった。

< 本年度大会の特徴 >

リーグ戦創設 大会は1～3部が6チームごとのリーグ戦へ移行する。また、安全対策上の見地から、1部は30名、2～3部は25名の選手登録が義務付けられる。各部相互間は上・下位1チームは自動昇格(降格)、次位チームが入替戦の結果で入れ替わる。6チームが総当たりすることで競技力のアップを計ると同時に、リーグ戦を勝ち抜くには競技力を支える選手層の厚さやチーム運営力・組織力など総合的な力が求められる。1部優勝チームはクラブ委員会の推薦手続きを経て、地区対抗大学大会・関東地区予選へ出場する。

4部はコンバインド可 大会への出場希望チームが18チームを越えた場合には4部が設けられる(トーナメント制で実施)。4部はコンバインド・チームでの参加も可とされるので、少人数で苦しんでいる大学チームは、他のチーム(クラブ・体育会いずれでも可)と合同チームを組んで公式戦へ出場できる。部員数の少ないチームにも、年に1回の緊張感ある公式戦への途を開いた。

監督・コーチ制度 この大会へ出場するには、監督・コーチ(名称を問わず)等の社会人の責任者が統率するクラブ組織であることが求められる。大会前には「監督・コーチ会議」が開催され、学生クラブの抱える様々な課題に対応して行く。目下、慶大BYBやJSKS、早大GWなどを中心に、学生クラブの専用グラウンド作り構想がスタートしている。監督・コーチ会議に期待される役割は大きい。なお、監督・コーチは、地区対抗大学大会への出場資格要件である。

帯同レフリー 昨年からの施行の「日本協会規約」では、傘下チームは必ず1名以上の公認レフリーを養成すべき義務が宣明された(第70条8項)。本大会出場に当たっては、公認レフリーの帯同が義務化された。初年度に当たる今年は、各チームから学生レフリー候補者最低1名を選出する。当面はタッチジャッジに起用して育成を計る。学生チームは毎年人が入れ替わるので、年度ごとに毎年新たな候補者を選出するシステムの下で運用する。クラブ委員会に設けたレフリー小委員会が策定した「発掘・育成プログラム」に沿って実施される。

真田カップ・トーナメント大会 東西学生クラブ対抗試合(12月19日/花園)への出場権は、覇権方式から推薦方式を鮮明に打ち出したシステムへ変更される。すなわち、大会終了後、1部優勝・準優勝チーム+2～4部優勝チーム、計5チームによる<真田カップ・トーナメント大会>を実施する。その戦績と当該クラブの日常活動、運営力、組織力、ラグビーマナー、大会へ取り組む姿勢、OB会の協力関係、その他一切の事項を総合勘案して、クラブ委員会で出場チームを選定推薦する。トーナメント戦を制覇しただけでは推薦されない。学生クラブの認知と地位向上に多大な貢献をされた故・真田洋太郎クラブ委員長(初代)の遺志を継ぎ、その名を冠した大会に相応しい推薦制度がスタートする。

この大会は学生「クラブ」の大会である。サークルや同好会の大会ではない。「クラブ」だからこそ、看板を背負って立つのではなく、「自己の名誉」を賭けて戦うのである。そういう趣旨を理解し、実践する学生クラブのみに参加資格がある。出場する学生ラグーマンの「情熱と誇り」に期待している。

関東学生クラブ選手権大会・実施要項

- 1. 名称** 第13回関東学生クラブラグビーフットボール選手権大会、
兼、第56回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会・関東地区学生クラブ予選
- 2. 主催** 関東ラグビーフットボール協会
- 3. 主管** 埼玉県ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、
茨城県ラグビーフットボール協会、千葉県ラグビーフットボール協会、
東京都ラグビーフットボール協会
- 4. 日程** 2005年9月～12月

5. 参加資格

- (1) 2004年3月31日現在、各都道府県ラグビーフットボール協会に「チーム登録」された学生チームとし、メンバー全員が学生(大学院生含む)で構成されていること。但し、4部を除いて、コンバインドチームは認めない。
- (2) 昨年度の全ての公式大会で、棄権、不戦敗もしくは失格したチームの参加は認めない。
- (3) 過去に未登録の選手を偽って出場させたチームないし選手も同様とする。
- (4) 1部は30名、2～3部は25名以上の選手が登録されていること。
- (5) 各クラブとも社会人の監督ないしコーチ(学生不可)が統率しているチームであること。

6. 選手資格

- (1) 本大会の選手資格は、財団法人日本ラグビーフットボール協会「日本協会規約」、及び、その他の施行細則に抵触しない者とする他、以下の特則に服する。
- (2) 選手は満18歳以上の学生とし、高等学校在学中(定時制を含む)の者の参加は認めない。
- (3) 2005年8月17日までに本大会へ出場する所属チームから日本協会へ競技者個人登録を完了した者に限る。
- (4) 本年度の日本選手権大会(大学・社会人・クラブ等全てのジャンルを含む)につながる都道府県大会ないし地域大会で、既に一つのチームから選手登録された者は、前項の登録期限に関わらず、移籍して他のチームから本大会へ選手登録することは出来ない。
- (5) 他のチームとの二重登録は認めない。
- (6) 財団法人スポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」に加入していること。
- (7) 外国籍の選手(特別永住権が認められた在日外国人を除く)の出場制限は本クラブ大会にはないが、上位大会へ出場した場合、「日本協会規約」の規制を受ける。
- (8) 本大会の選手資格に疑義がある場合には、関東ラグビーフットボール協会クラブ委員会に於いて裁定する。
- (9) 4部の選手資格は、参加チームの状況により別途規定を設ける。

7. 競技方法

- (1) 大会は、1部、2部、3部はリーグ戦と決勝トーナメント方式により、4部はトーナメント方式により優勝チームを決定する。
- (2) 組み合わせ方法、各ブロック間の入れ替え方式は大会実行委員会が別途定める方式に従って実施する。

8. 競技規則

- (1) 2005年度財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の「競技規則」による。
- (2) 試合時間は40分ハーフとする。但し、4部は35分ハーフとする。
- (3) リーグ戦の順位決定は、以下の基準による。
 - 全ての試合の勝利数
 - 勝利数が同じ場合には、全ての試合の総得失点差数。
 - 総得失点差数が同じ場合には、下記(4)項に準じて決定する。
- (4) トーナメント戦で、規定時間内に勝敗が決しない場合には、以下の基準で上位進出権を決する。
 - トライ数の多いチーム。
 - トライ数が同じ場合には、トライ後のゴール数が多いチーム。
 - 上記の方法で決することができない場合には抽選で決める。
- (5) 試合中ノンコンテストスクラムが発生した場合、勝敗は得点どおりとする。
- (6) 決勝戦で同点の場合には両チーム優勝とする。但し、上位大会への出場を決める場合には、上記(4)項の基準による。

9.罰則

- (1) 参加資格を偽った場合、選手資格のない者が出場した場合には、その時点で失格とし、本年度及び次年度のすべての公式大会への出場を認めない。不戦敗ないし棄権したチームも同様とする。
- (2) 未登録の選手ないし他チームに登録された選手を偽って出場させた場合(いわゆる替え玉等)には、以後すべての公式大会から排除する。
- (3) その他、スポーツマンシップに反する行為があった場合は上記(1)を適用する。
- (4) いずれの場合にも事実発生時の相手方チームを勝者とし、それ以前のものには触れない。
- (5) 出場チームはその所属するチームの応援団の行為についても責任を負うものとする。
- (6) 本大会で生じた不規律に関しては、チームないし選手に告知聴聞の機会を与えた上で、大会規律委員会で処分を決する。

10.顕賞

- (1) 各ブロックとも優勝および準優勝チームを表彰する。1部ブロック優勝チームには、賞状、関東ラグビーフットボール協会会長杯、オーストラリア大使杯、及びニュージーランド航空盾を授与し、準優勝チームには賞状を授与する。
- (2) 本大会での成績を基に、チームマナー、クラブの組織力、運営力などを総合勘案して、第56回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会・関東地区予選出場チームを選定推薦するものとする。
- (3) 第4回東西学生クラブ対抗試合へは上記の基準に加え、戦績のみならず本年度の全ての活動成果を総合勘案して選定推薦する。

11.参加料

- (1) 大会参加料 = 20,000円(代表者会議に於いて徴収)
- (2) 試合ごとに各グラウンドで試合経費を徴収する。
- (3) 試合中に発生した負傷等の医療費は、各自の負担とする。
- (4) 既納の参加料及び諸費用は、いかなる事由でも返還しない。

12. チーム競技委員の選出

- (1) 各チームから「チーム競技委員」を1名選出すること。この委員が中心となって大会運営を行なう。チーム競技委員を務めるときは、チームと離れて行動すること。
- (2) 出場チームは、有資格のメディカル・サポーターを必ず帯同させなければならない。
- (3) 出場チームは、公認レフリー(候補者)を必ず帯同しなければならない。

13. 大会申込方法

- (1) 参加チームは、登録選手40名以内で所定の参加申込書を作成し、下記の提出物全て(欠けた場合は受付けない)を、締切日(遅れた場合も受け付けない)までに郵送すること。

申込書・選手登録用紙(PDF形式、WORD形式)

- (2) 各チームは連絡担当者のメールアドレスを必ず指定すること。連絡は原則として電子メールで行う。
- (3) 提出物 大会参加申込書(メールにて同時提出) * 公式戦・交流戦どちらかに必ず をすること
選手登録用紙(メールにて同時提出)
日本協会・競技者個人登録用紙(8月17日現在の競技者個人登録=チーム控え=)の写し
スポーツ安全協会・加入依頼書の写し

	締切日 8月17日(水)必着
郵送先	〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35 秩父宮ラグビー場 関東ラグビーフットボール協会クラブ委員会 電話 03-3423-4421 FAX 03-3423-4619

*** 封筒の表書きに赤字で、<関東学生クラブ選手権大会・参加申込書在中>と表記すること。**

関東学生クラブ選手権大会・参加上の諸注意

東日本エリアの学生クラブ選手権大会は、前身の東京都学生クラブ選手権大会の時代から通算して19年目を迎えました。この大会は単に覇を競うだけが目的ではなく、ラグビーを通じてマナーの向上やラグビースピリットの涵養など、学生生活を豊かなものとしてゆくために開催されます。従って、大会発足当時から学生クラブの威儀を正そうと、当たり前のルールを当たり前で適用するという基本スタンスでやってきました。このようなきちんとした大会ルールの下で大会が実施されてきたことが、後に東西対抗試合(花園)や地区対抗大学大会への出場権へ結びつきました。学生クラブ選手権は、クラブに集う学生ラグーマンが自らの手で運営する「仲間立」*による大会です。お互いが気持ちよくラグビーをやるための紳士協定として、大会要項はじめ諸規約を理解し、大会を自らの手で有意義なものに作り上げて行きましょう。

*「仲間立」= 公立、国立、私立…の「立」で、仲間が協同して作り上げるという趣旨の「仲間立」。

競技に関する諸注意事項 = 事前、試合当日、試合後の諸ルール =

1. 選手登録の方法

- (1) この大会の選手登録人数は、2005年8月17日までに日本協会へ競技者個人登録を完了した者の中から40名以内とする。
- (2) 大会期間中、40名の選手登録を変更、追加、入替えることは出来ない。申込時点で登録した選手のみに出場資格がある。
- (3) 個人登録番号は、競技者個人登録の手続きをする際に各チームが付番した番号である。協会から通知されるものではないので十分注意すること。
- (4) 試合ごとの登録選手は22名以内とする。試合会場到着時に大会本部受付へメンバー表を提出する。

2. 選手の交替、入替え(競技規則第3条等参照)

- (1) 選手の交替、入替えは、「競技規則」の定めるところによる。(以下略説)
- (2) チームが19～22名の選手を指名する場合には、少なくとも5人はフロントローとしてプレーできる選手でなくてはならない。
- (3) チームが16～18名の選手を指名する場合には、少なくとも4人はフロントローとしてプレーできる者でなくてはならない。
- (4) 選手の交替(マッチ・ドクター、または医務心得者からプレー続行不可と勧告のあった場合)は、7名まで。
- (5) 選手の入替えは、フロントローは2名まで、その他は5名まで。
- (6) 入替わった選手は、その試合に再出場することは出来ない。但し、以下の場合を除く。
出血した選手の一時的交替の場合。
フロントローとしてスクラムが組める選手が他にいなくなった場合。
- (7) 試合中、十分適切にフロントローとして訓練を受けた選手がいなくなった場合には、安全対策の見地からノンコンテストスクラム(模擬スクラム)により試合を続行する。この場合の勝敗は、得点どおりとする。
- (8) 出血のための一時的交替は15分以内とし、それを越えた場合には正式交替として取り扱う。
- (9) コンタクトレンズ装用にかかる不具合に対する時間は与えない。
- (10) 交替、入替え、出血の手当てをする間の一時的交替は、必ずチームの交替指示者から第三タッチジャッジに告

- げてレフリーの許可を得て入退出すること。交替指示者以外の者が交替を申し出ても受け付けない。
- (11)レフリーの許可なく入退出した場合には、「競技規則」の不行跡として罰せられる。
- (12)試合中の負傷者への対応及び処置、負傷交替についての最終判断は、マッチ・ドクターに属する。

3. シンピン、退場(競技規則第10条等参照)

- (1) シンピン(一時的退出)となった選手は、ハーフウェイライン付近の所定の場所に位置しなければならず、レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレーに入ってはならない。その間、チームコーチ等と接触してはならない。
- (2) シンピンの時間は10分間とし、ハーフタイムの時間は含まれない。同一シーズンの公式試合において、累積3回目のシンピンが適用された選手は、そのまま退場となり、ゲームに再出場することは出来ない。また、次の1試合は出場停止となる。(各地域大会、国体その他の公式試合から累積適用されるので注意すること)
- (3) フロントローの一人が退場もしくはシンピンとなった場合、当該チームの指名された全ての選手の中にフロントローがいなくなれば、レフリーはノンコンテストスクラムを命ずる。この場合、交替するフロントローが訓練され適切であるかどうかを決定し、またいるかどうかを決定するのはレフリーの責任においてではなく、チームの責任においてである。
- (4) 入替えて退出した選手であっても、フロントローとしてスクラムが組める選手が他にいなかった場合には、一時的交替でゲームに再出場することが出来る。
- (5) シンピンで一時的退出していた選手が戻ってきた時点で、一時的交替のフロントロー選手とその交替した選手は、元へ戻る。(この一時的交替は、入替えに数えない)
- (6) 累積シンピン退場以外の事由(不行跡等)で退場となった選手は、「退場を命じられたプレイヤーの措置」に基づいて、大会規律委員会では処分を決する。処分が決まるまで、試合には出場できない。
- (7) 退場となった選手は、処分期間中はチームスタッフとして登録できず、また、グラウンド上の「チームエリア」への立ち入りを禁止する。

4. 90分前受付

- (1) 当日の「チーム競技委員」は、キックオフ120分前～90分前までに大会本部でチーム受付を済ませること。
- (2) 大会本部より当日の必要な伝達を行うので代理の者ではなく、必ずその日に「チーム競技委員」を務める者が出向くこと。
- (3) 90分前受付時には、以下の事務手続きを行なう。
当日の「チーム競技委員」、「メディカル・サポーター」、「帯同レフリー(タッチジャッジ)」を登録する。
70分前プレマッチミーティングまでに、当日の「メンバー/スタッフ表」を提出することを確認する。
選手・リザーブ選手とスタッフ、スタッフ相互間は兼任できないことを確認する。
その他試合運営に必要な事項を連絡する。

5. 70分前「プレマッチ・ミーティング」

- (1) キックオフ70分前に「プレマッチ・ミーティング」を行う。当日出場できる選手・スタッフが確定される。この時点で到着していない選手・スタッフは、大会へ出場できない。
- (2) チーム競技委員は、70分前「プレマッチミーティング」に、「スタッフ/メンバー表」を漏れなく記載して持参すると同時に、以下の人員を大会本部の所定の場所へ集合させなければならない。
- 出場選手全員(リザーブ含む)
 - 交替指示者
 - メディカル・サポーター
 - 帯同レフリー(タッチジャッジ)

記録係

ボール係(3名)

水係(3名以内)

チーム・ドクター(いるチームのみ)

- (3) 各チームの記録係は、記録席で「公式試合記録用紙」を記入すること。
- (4) 試合は原則としてスリーボール制で実施する。各チームからボール係を3名出し、自チームの左サイドに分かれて立つこと。
- (5) 試合球(3個)は、ホームチームの責任で用意すること。両チームで話し合って同一品種のものを用意し、事前に大会本部で内圧等のチェックを受ける。チェックを受けたボールは、キックオフまで大会本部であずかる。
*本年度に限りレース付きボールの使用を認めるが次年度からは使用できない。予めご承知置きいただきたい。

6. ドレスチェック

- (1) 70分前「プレマッチ・ミーティング」時に、大会役員と担当レフリーは、当日の出場選手全員のドレスチェックを行うと同時に、スムーズな試合運営のための意識統一を行う。
- (2) 各出場メンバーが「メンバー表」に記載された本人であることを確認する。
- (3) 選手の着用する服装(ジャージ、パンツ、ソックス)の統一性及びヘッド、アンダーシャツ・パンツ、サポーター類の基準適合性と安全性を確認する。
- (4) スパイク及び手の爪等の安全性を確認する。
- (5) レフリーに関する注意事項を伝達するとともにスムーズな試合運営について打ち合わせる。
- (6) 70分前「プレマッチ・ミーティング」に15人揃わないチームは不戦敗とする。

7. 競技時、ハーフタイム時の諸注意

- (1) 試合中、リザーブ選手やチームスタッフを含む関係者は所定の場所に位置し、静かに観戦すること。
- (2) リザーブ選手、競技委員、交替指示者、メディカル・サポーター、水係、ボール係、記録係、その他のスタッフがゲームの進行とともにタッチサイドをうろろう移動したり、指示の声を出すことを厳禁する。ラグビーはキャプテンシーのスポーツである。
- (2) 競技規則以外の事由によるリザーブ選手、チームスタッフ等の不規律に関しては、当日のマッチコミッショナーより、注意、警告し、あるいは退場処分とする。
- (3) リザーブ選手は上着、トラックスーツを着用するなど、必ず競技中の選手と見分けがつく服装をすること。
- (4) 出場選手以外のメンバーは、グラウンドに出て練習等に参加しないこと。
- (5) グラウンド内にチームベンチが設けられた場合、ベンチに入れるのは最大16名までとする。=リザーブ選手7、監督・コーチ1、メディカル・サポーター1、水係3、競技(交替指示者含む)3、チームドクター1。
- (6) 本大会のハーフタイムは、決勝戦以外は、5分以内とする。ハーフタイム時の選手(リザーブ選手を含む)の休息地点は、5メートル・ラインより内側である。水、その他の持ち込みは、水係(各チーム3名以内/ビブス着用)が5メートル・ラインより内側の選手の所に持って入ること。うがいした口の中の水やレモンかす、チリ紙等はグラウンドへ捨てない。そのための空のバケツを持って入ること。
- (7) ハーフタイムの時、フィールド・オブ・プレーに入ることを出来る監督ないしコーチは、1名のみとする。(競技規則第6条C2を準用。ルール委員会、レフリー委員会との申し合わせ事項による)
- (8) ホームチームの水係は、レフリーへ水、その他を持って行くこと。
- (9) グラウンドに水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。(ビン類不可)

- (10)芝生グラウンドでは、必ずキックターを用いること。キックターは試合前にボール係に預けておくこと。
- (11)キックオフ前、ノーサイド後の整列は行わない。ノーサイド後は速やかにグラウンドを空けること。ラグビーはノーサイドとともに、サイドの隔てがなくなるスポーツである。
- (12)チームのミーティングは、交歓会等の公式行事が終わってから行なうこと。

8.ラグビー・マナー

- (1) 試合会場への往復、交歓会(アフタマッチ・ファンクション)、開会式、代表者会議などにはコート&タイの正装で臨むこと。
- (2)試合会場へは選手、スタッフ全員正装とし、会場において着替えること。会場への往復途上のジャージ姿、サンダル履き等は厳禁する。
- (2) アフタマッチ・ファンクションが実施される場合には、出席者全員が必ず上着を着用し、コートやマフラー、帽子、手袋等を取り、身だしなみを整えて出席すること。
- (3) 会場への往復の際、ボール、やかん、空気入れ等は、ムキ出して持ち運ばないこと。
- (4) 更衣は定められた場所で行い、また、ロッカーエリア外には裸体で出てはならない。更衣室の後始末は、たとえ自チームが汚したものでない場合でも清掃し、清潔保持に努めて頂きたい。
- (5) ゴミ(グラウンド内ばかりでなく更衣室のゴミも含む)は、必ず各自、各チームで持ち帰ること。
- (6) 会場周辺の公道への違法駐車は厳禁する。会場整理の係員の指示に従うこと。
- (7) 会場内は、グラウンド、更衣室、交歓会会場、駐車場、その周辺区域を含めて全面禁煙とする。特に、ジャージ姿のままでの喫煙は厳禁する。

9.安全対策、脳しんとうの報告義務

- (1) 大会参加に当たっては、あらかじめ健康診断を受診する等、選手の健康管理に充分配慮すること。特に、過去に頭部外傷や脳しんとうを起こしたことがある者は、必ず脳波検査、CT等の検査を受診させること。
- (2) グラウンドで明らかな頭部打撲を認め、その受傷時に応答(意識状態)の異常、あるいは、身体活動の異常が認められるものは、すべて競技規則にいう「脳しんとう」に該当するものと考えて退場させる。試合中に脳しんとうで退場した選手が出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳しんとうによって退場した選手は、以後3週間は医師の診断書で認められた場合を除き、試合、練習には参加できない。
- (4) 日本協会の「競技者個人登録(=登録者傷害見舞金制度)」、及びスポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」の加入手続きに、漏れのないよう充分注意されたい。
- (5) 保険証のコピー、選手の緊急連絡先等は、チーム責任者できちんと管理しておくこと。

プレーヤーの服装 / ジャージの規定

(競技規則第4条、日本協会規約、参照)

<1> 服装の統一

- (1) ジャージ、パンツ、ソックスは、チーム全員統一されていること。不統一の選手、その他服装規定に反した選手は出場できない。
- (2) 各チームは、ファーストジャージの他に、セカンドジャージ(いずれも背番号の欠番のないもの一式)を準備すること。

- (3) パンツのスリットライン、ソックスの折り返しの不統一は認めない。チームマークのついたパンツを着用するチームは、全員が統一されていること。
- (4) スパイクは、固定式のスタッド(一体形成型ゴム底のもの)であれば、鋭い形状の部分や鋭く隆起している部分がない限り、イボ状またはブレードタイプのものの着用を認める。取り外し式スタッドの場合には、ブレードタイプの着用は認めない。
- (5) アンダーシャツを着用する場合には、ジャージと同系色が、黒または紺色のものに限る。色は単色とし、柄およびマークなど(メーカーロゴを含む)のないものであること。
- (6) ジャージのソデより長いアンダーシャツは着用できない。
- (7) パンツより長いアンダーパンツ(スパッツ)を着用する場合には、パンツと同色が、白色のものに限る。
- (8) タイツタイプのスパッツは着用できない。
- (9) ヘッドギア、ショルダーパットに色規制はないが、<IRBマーク>の付いたもの以外は着用できない。ドレスチェックは型番などではなく、<IRBマーク>の有無のみで判断する。
- (10) サポーター類(ひざ・ひじ等)を装用する場合にはパンツと同色の物を使用すること。但し、白色のサポーター類は、いずれのパンツにも使用することが出来る。
- (11) ジャージその他の用具に血液が付着した場合には、直ちに取り替えなければならない。
- (12) 安全対策の見地から、出場選手は、マウスガードを装用するよう務めなければならない。

< 2 > ジャージのデザイン

- (1) ジャージには背番号を表示する。1～15番は先発メンバーとし、16～22番をリザーブメンバーが着用する。
- (2) フッカーのリザーブは16番、もう一方のフロントローのリザーブは17番とする。その他のリザーブは18番から22番とし、フォワードからバックスへと背番号を付けるものとする。
- (3) ジャージは、エリ付きのもので、ソデは最低肩からヒジまでの長さを有するものであること。胸にマークを付ける場合には、100平方cmを限度とし、1ヶ所のみとする。
- (4) ジャージの素材は、衣類として使用できるものであれば可とする。但し、全員のジャージは同じ素材であること。ジャージは前立のあるもので、前立の長さは80～150mmとする。エリは縦型の場合、高さを35mm以上とする。
- (5) ジャージに胸マークを入れる場合には、全員が統一されていること。不統一なものや、取れたもの等一切認めない。また、破れやほころびは補修し洗濯された清潔なものであること。
- (6) 背番号を縫い付けた場合には、四隅だけでなくしっかりとジャージに縫い付けて、試合中取れないようにすること。また、縫い付けとプリントの混在は認めない。
- (7) 広告の入ったジャージ、パンツ、トラックスーツ等を着用する場合には、チームから競技場に対して広告料を支払う義務が生ずるので、あらかじめ承知置き頂きたい。

< 3 > プレーヤーの着こなし

- (1) 参加選手は全国の学生ラグーマンの代表としてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技役員から指摘される前に、各自、各チームで直すこと。
 - ソックスはきちんと上げる。試合中ずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ジャージのエリを内側へ折り込まない。ラグビーはエリのあるスポーツである。
 - ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (5) 70分前の時点で、レフリー及び大会役員がドレス・チェック(服装、スタッド等の検査)を行う。選手は、レフリーと大会役員の指示に従うこと。

- (6) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条5(c)により退場となる。
- (7) 服装規定に関して不明な点は、事前に大会実行委員会まで問い合わせをする等、当日のドレス・チェックの際にトラブルが起きないように、事前の徹底、再確認を充分しておくこと。

メディカル・サポーター / 水係り

- (1) 各チームは、有資格のメディカル・サポーター(認定証を持参)を必ず帯同して用意すること。リザーブ選手、スタッフとの兼任を禁ずる。無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (2) 試合前にレフリー、タッチジャッジ、マッチドクター等と十分な打ち合わせをし、負傷者発生の場合でゲームの中断を求める場合に備えてレフリー及び大会役員と「シグナル」の確認を行ない、適切な行動がとれること。
- (3) メディカル・サポーターの他に水係(3名以内)がグラウンドに入ることができる。但し、任務は水入れのみとし、無線機等の使用はできない。
- (4) メディカル・サポーター、水係は、自チームの応援をしたり、指示の声を出したりしてはならない。コーチが兼任することを禁ずる。コーチとは登録上のコーチならびにコーチングスタッフ全員を指し、彼らの指示を伝達する者も含まれる。これらの者の不行跡は、退場の対象となる。
- (5) メディカル・サポーター、水係は、大会本部から貸与する所定のピブスを着用すること。

ホームチームの定義 / ジャージが同系色の場合の措置

- (1) ホームチームの定義 / ホームチームとは、組み合わせ表の右側(下側)チームとする。
- (2) ホームチームの役割 / ホームチームは、相手チームと連絡を取り合い、試合1週間まえまでに、レフリーに確認の連絡を入れること。連絡事項は、期日、キックオフ時間、場所の他に、当日両チームが着用するジャージの色を必ず通知すること。
- (3) アフタマッチ・ミーティングでは、ホームチームの「チーム競技委員」が進行に責任を持つこと。
- (4) ジャージが類似した場合 / ジャージが同系色の場合には、以下の順序で着用するウェアを決める。
ファーストジャージが類似した場合には、両チームともセカンドジャージ。
セカンドジャージが類似した場合には、ホームチームがセカンドジャージ、ビジターチームがファーストジャージ。
それでも類似した場合には、ホームチームがファーストジャージ、ビジターチームがセカンドジャージ。
それでも決まらない場合には、大会実行委員会が指定した方法で決める。
両チームで話し合ったジャージ色は、必ず大会本部の承認を得ること。

大会当日に必要な選手・スタッフ

大会当日は、以下の人員がグラウンドに揃うことが必要である。兼任は出来ない。試合当日のスタッフ不足は「失格」となる。各チームは、事前にチーム事情を勘案して、選手、スタッフを集める努力をすること。もし、スタッフが不足する場合、もしくは不足のおそれが懸念される場合は、自チームの責任において、前日までに他チームへレンタルを依頼するなど万全の措置を講じ、スタッフを必ず確保したうえで試合会場へ来場すること。なお、レンタルスタッフの不規律は、そのチームが全責任を負うものとする。

名称	人数	備考
選手(1～15番)	15人	
リザーブ(16～22番)	7名以内	7名より少ない人数は原則として不可
チーム選出競技委員	1名	チーム選出競技委員と交替指示者のみ兼任可
交替指示者	1名	同上
記録係	1名	レンタル可
タッチジャッジ(レフリー候補者)	1名	チーム帯同レフリーが務める(本年度はレンタル可)
メデイカル・サポーター	1名	レンタル可
ボール係	3名	レンタル可
水係	3名以内	レンタル可

大会出場にはクラブ帯同公認レフリーが必要です

= クラブチームの競技力・運営力の強化のために =

昨年度から施行された「日本協会規約」で、日本協会傘下チームは必ず1名以上の公認レフリーを養成すべき義務が宣明されました(第70条8項)。クラブで従来から押し進めてきた帯同レフリー制度が規約化されたこととなります。この大会では、各クラブで公認レフリーを養成し、ランクアップする制度をバックアップします。昨年度大会時に予告したとおり、本年度大会からクラブ帯同公認レフリーを義務化します。

クラブ帯同公認レフリー制度の意義について

ラグビーの発展は、「競技規則」の正しい理解と運用を、プレイヤーとレフリーとが共有できてはじめて達成されます。レフリングの向上が、規律ある健全なラグビーの発展、また、よりエキサイティングで、よりエンジョイできるラグビーの促進に不可欠だということは、異論がありません。そこで、各クラブが自チーム内に帯同レフリーを有することによって「競技規則」に関する理解を深めるとともに、各種のクラブ大会において帯同レフリーが相互の意見交換、交流を図り、レフリー自身のレフリングの向上に資することが制度の目的です。

レフリーもレフリングを通じてクラブライフをエンジョイするのがクラブチームです。こうした制度の目的、趣旨をご理解いただき、学生クラブのさらなる発展と同時に、レフリーの地位向上、尊敬されるレフリーの確立に向けて、この制度の活用を計りたいと思います。

学生クラブから公認レフリーを作ろう

何はともあれ、クラブチームに公認レフリーがいないことには話になりません。各クラブは、自チームから公認レフリーを育成する努力を重ねて下さい。そして、その公認レフリーがチームと密着して行動でき、「ルール・コーチ」として活動できる環境を整えて下さい。すでに公認レフリーがいるクラブでは、そのレフリーのランクアップ(C B A)を支援してあげ

ましよう。また、二人目、三人目の公認レフリーの養成も行い、自チーム内でローテーションを組んで帯同できる仕組みや、他クラブへ自チームから派遣できるくらいの運営力を蓄えて下さい。

現役学生のみならず、卒業生や社会人など、レフリー候補者の発掘に努めてください。幅広い人的つながりを持つことがこれからの学生クラブの課題です。

外部の公認レフリーに「お教をを請う」ことも必要ですが、各クラブが自チーム内に有能な公認レフリーを抱えることは有意義なことです。そのことによって、ルールに関する理解度、熟知度の向上、反則の未然防止等々、帯同レフリーはチーム力強化に直結します。

また、レフリング上の疑義などが生じた場合、残念なことに往々にしてその試合を担当したレフリーがチームから激しく攻撃される事例があちこちで起きています。これは、まったく不毛の論争です。そうではなく、担当レフリーと各クラブに帯同する公認レフリーとが純粋にレフリング上・ルール上の問題点として捉え、その疑義をお互いデスカッションして解決を計って行くべきです。そういう生産的方向にエネルギーは費やされるべきなのです。レフリーとチームとの創造的関係の構築 これもクラブ帯同公認レフリー制度の狙いの一つです。

今年から、全参加チーム対象に公認レフリー(学生候補者)選出を義務化します。

出場チームはかならず、毎年公認レフリー候補者(学生)を1名以上帯同しなければならない。OB等で既に公認レフリーがいる場合でも、学生候補者は必須とする。

学生候補者に加えて、OB等の候補者も歓迎する。(但し、学生候補者は全チーム必須)

名目だけの候補者は認めない、試合当日必ず帯同できる者であること。

公認レフリー候補者は、大会期間中、3度のレフリー研修会に出席しなければならない。

・勉強会2回

・実技見学研修会1回

・3回の研修会修了者に対して、「レフリー実技記録票」を交付する。

・「レフリー実技記録票」保持者には、各自1年以内に最低10回の練習マッチ等のレフリーを義務づけ、相手チームの責任者(キャプテン等)のサインをもらう。

・10試合に達したら、クラブ委員会・レフリー小委員会に申し出る。

・小委員会は、その候補者の実技を試見し、公認レフリーに相応しい技量があると認められた場合には、東京都ラグビー協会へ<C級レフリー>の認定を推薦する。

なお、本年度のレフリー候補者(学生)は、試合当日の自チームのタッチジャッジを務める。万一、都合がつかない場合には、他クラブからのレンタルを認める。但し、レンタル制度は2年後を目標に解消する。

この帯同レフリー制度は本年度限りのもではなく、年度ごとに毎年新たな候補者を選出するシステムの下で運用する。

詳細はクラブ委員会・レフリー小委員会から指示する。

* 帯同レフリー制度は、既に昨年度大会時に予告済みです。

第13回関東学生クラブ選手権大会・選手登録用紙

チーム名	所属都道府県	団体登録番号
------	--------	--------

* 数字は、半角文字で。

No	位置	氏名	学年	個人登録番号	身長 cm	体重 kg	在学名	出身校	平成16年度の 登録チーム名
1	PR			4-					
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									

この大会の趣旨を充分理解し、安全対策に万全を期した上で申し込みます。

チーム名

代表者署名

<選手登録用紙・記入上の注意>

位置は、上から順番に、PR・HO・LO・FL・NO8・SH・SO・CTB・WTB・FBの順に記入し、FBの後に追加を書かないこと。

在学学校名は、短縮した略称で記入のこと。

(例/慶大(院)、早大、中大、東京法科(専)、等々)

* 学校名の欄の語尾は、大学院は「大(院)」、大学は「大」、専門学校は「専」、予備校は「予」等と表記されていること。

出身校のフルネームは不可。短縮した略称で記入のこと。

(例/高崎、高崎工、高崎商、大検、等々)

(不可例/伏見工業高等学校 伏見工、明治大学附属中野高等学校 明大中野)

(区別例/市立柏、県立柏)

個人登録番号は、下4桁(4 -)のみを記入のこと。

平成16年度の登録チームは、自チーム変更ナシの場合には<自チーム名>を記入すること。

* 他チームから移籍した選手は、必ず<前チーム名>を記入すること。

* 前年度どこのチームにも所属していなかった場合には<新規>と記入すること。

記入漏れのないように、全ての欄を埋めること。

* 空欄を作らないこと。空欄のある選手名は自動的に削除します。

登録用紙提出後の追加、差替は、事由を問わず一切認めない。

昨年度の書式と異なる項目があるので、昨年度のものをコピーして用いないこと。

数字は、半角文字で入力すること。

文字化け、改行狂いなどは、各パソコンで修正すること。

* 参加申込書()と、選手登録用紙()は、必ず3枚一組で提出すること。

本大会の大会事務局

(1) 本大会の大会実行委員会を、主催する関東ラグビーフットボール協会・クラブ委員会内に設ける。

(2) 大会運営は、<関東学生クラブ委員会>が行なう。関東協会事務所では問い合わせには応じないので注意すること。

(問い合わせ先)
